

# ペルー・スペイン語の voseo —南北アメリカ voseo の歴史に向けて—

堀 田 英 夫

## Voseo del español en Perú —Hacia la historia del voseo americano—

HOTTA Hideo

### 0. はじめに<sup>1)</sup>

スペイン語地域差の重要なテーマの一つである voseo<sup>2)</sup> について述べる場合、ペルーは、メキシコと同じく、首都を含む大部分が tuteo<sup>3)</sup> 地域であり、かなり限られた地域（北部と南部）の民衆層に残存しているという記述となる。Kany (1951) にある国ごとの voseo についての記述で、ペルーについての記載には、“PERU (LIMITID ZONES)”（ペルー（限定された地域））(Kany 1951: 73) というタイトルが付けられている<sup>4)</sup>。

スペイン語圏全体を視野にいれてスペイン語の待遇形式（話し相手を示す代名詞とその動詞形）についての論述を収録した Martin Hummel, Bettina Kluge, María Eugenia Vázquez Laslop (編) *Formas y fórmulas de tratamiento en el mundo hispánico* (México, D.F., El Colegio de México, 2010) には、ペルーの待遇形式を主題とした研究として Martin Hummel の“El estudio de las formas de tratamiento en Perú” のみが収録されている。この Hummel (2010: 377) に、ペルー・スペイン語の待遇形式について厳密で科学的方法での調査や研究は、今日まで存在していないと書かれている。

一国の中の中央から離れて南北の地に voseo が分布しているペルーは、voseo から tuteo への変化の波が進行中に止まった線が残っていると推測されることから、南北アメリカ全体の voseo の歴史を考えるうえで重要な位置をしめている。本稿は、ペルーのどこに、どのように、どのような形式の voseo が存在しているのかを研究者の報告をまとめ、今後の調査に資することを目的としている<sup>5)</sup>。また、限られたデータではあるが、それら

から考える南北アメリカ voseo が変化してきたプロセスについて仮説を考えた。

## 1. 南部

### 1) Rudolf Lenz (1891)<sup>6)</sup>

ペルー南部のタクナ (Tacna) の例として、以下の引用がある：

“oyí (= oíd) no te vayais tande priesa”

“Porqué te fuistes i me dejastes llorando?” (タクナの民謡)

“vos te vas” (くだけた口語) (Hummel 2010: 382の引用)

これらの例文から、代名詞は、主格が vos、目的格が te である。動詞 ir の接続法現在 vayais の形は、アクセントが vayáis であるならば、2 人称複数形と同形である。3 つ目の例文の動詞 ir の直説法現在形 vas は 2 人称単数形と同じである。直説法点過去は、fuistes (ir), dejastes (dejar) で、活用語尾の母音は単数形と同じで、語末 s は複数形と同じである。複数起源形なのか、単数形に -s が付加されたのかはこの資料からのみでは不明である。

### 2) Pedro Benvenuto Murrieta (1936)<sup>7)</sup>

南部のアレキパ (Arequipa) の民衆層に voseo が生き生きと存続している (subsiste vivamente) と記述している (Hummel 2010: 377)。

Si vos me querís, quereme

Y no me engañís bandíu,

No me dejís despancada

Que para vos te he paríu

F. Mostajo (Benvenuto, p. 139. Kany (1951: 74) の引用)

代名詞は、主格・前置詞格が vos、目的格が te である。動詞形は、AR 動詞接続法現在 (否定命令) が “engañís” (engañar), “dejís” (dejar) なので、堀田 (2011: 193–195) で示した voseo の複数起源動詞形の分類にあてはめると C 型である。

Hummel (2010: 379) には、他に has, estás, vas, sos (sois も), tomás; abris, vivís, querís, enojís, chupís, 未来形 : vivirás, tendrás, deberís, traerís, 点過去 :

abristes, dejastes, dijistes の動詞形があげてある。これらは、tomás (tomar) が A 型で、querís (querer), enojís (enojar), chupís (chupar), 未来形：deberís (deber), traerís (traer) が C 型である。

### 3) José Pedro Rona (1967)

アンケート用紙を送付しての通信法による南北アメリカ全域を対象とした調査結果である Rona (1967) では、ペルー南部のアレキパ県<sup>8)</sup>の中に voseo がもっばらの狭い地域 (pequeña zona de voseo exclusivo) があり、その東のタクナ県、モケグア県<sup>9)</sup> (Moquegua)、それにプーノ県 (Puno) の南部では tuteo と voseo が共存している (p. 66) とされている。

AR 動詞の活用語尾は、-áis の分布の説明文中に、ペルー南部の voseo 地域 (en la parte voseante del Sur del Perú: p. 78) とある。地図 10 番 (p. 75) では、アレキパ県南東部、モケグア県、タクナ県あたりが tomáis の縦線、アレキパ県北部とプーノ県南部あたりが tomáis の縦線と tomás の横線が重なって、格子縞模様になっている。

ER 動詞活用語尾は、-ís “es general en la porción voseante del Perú (salvo una pequeña zona en la triple frontera con Chile y Bolivia)” (p. 82) (-ís がペルー voseo 地域で一般的 (チリ、ボリビアとの 3 国国境の狭い地域を除く)) とあり、ペルー、チリ、ボリビア 3 国の国境地帯では、-éis とある (p. 82) ので、前者は C 型、3 国国境地帯は、複数形使用の型である。

### 4) Real Academia (2005)

“en el sur, junto a vos, se utilizan las desinencias verbales voseantes chilenas ... Excepto en Arequipa, donde vosean hablantes de las áreas rurales y urbanas, es uso arcaico y en recesión.” (p. 673) (南部では、vos とともにチリの voseo 動詞形を使っている。アレキパ(ここでは農村と都市の話し手が voseo を使っている)を除いて、voseo は、古風な話し方で消滅傾向にある) との説明があり、国別動詞形 (Formas del voseo verbal por países) のペルーでは、“Perú (Arequipa)” と国名欄にあり、アレキパの動詞形が提示されている (p. 675)。直説法現在形は、cantás, comís, vivís とあり、AR 動詞が A 型、ER 動詞が C 型と、混ざっている。未来形は cantarás, comerís, vivirís とあり、AR 動詞が単数形、ER・IR 動詞は複数起源形であり、標準スペイン語 2 人称複数形語尾 -éis /éy/ に対し、/í/ と対応していることを考えると C 型で

ある。点過去 *cantastes, comistes, vivistes* は語末 *s* が付いていることを除いて、母音の形は単数形と同じ。命令形 *cantá, comé, viví* は A 型である。

### 5) Alejandra Guajardo (2009)

アレキパ県アレキパ郡の *campiña* (平地の耕作地) (*Chiguata, Paucarpata, Sabandía, Characato, Socabaya, Quequeña, Yarabamba, Pocsi, Mollebaya, Polobaya* の各区) で話されていることば “*habla loncca*” (ロンコことば) の *voseo* を (2.1)、7 人の面接調査と地区の市場や酒場、家族的な集まりや散歩などの場面での自然な会話の録音、それに “*poemas lonccos*” (ロンコ詩) を資料としている。ロンコ詩とは、アレキパ特有の、この地方の口語表現による詩である。ロンコ詩からの例には、アステリクス 2 つが付けられている。

代名詞形の主格は、*tú* と *vos* の両方の例がある。前者 *tú* の方が多いとの記述がある：“*el voseo arequipeño es básicamente verbal con el pronombre ‘tú’.*” (p. 20) (アレキパの *voseo* は基本的には代名詞 *tú* と動詞形である)：

“*¡Ay, si tú te acordáis de mí! como yo siempre me acuerdo*”

“*Que vos sois la hija más querida de ña Arequipa!*”

前置詞格：*vos*

“*Y a vos jovencito que me estáis preguntando lo mismo*”

目的格：*te*

“*¿Pa qué te laváis?*”

“*Papá te he traído el almuerzo, dejameló ahí no más*”

所有形容詞：前置形が *tu*、後置形は例示がない。

“*¿Creís que tengo miedo a tu hermano?*”

“*Tú no más teas quedao? ¿dónde están tus hermanos?*”

AR 動詞直説法現在<sup>10)</sup>：多くは *-áis* の語尾を持つ (*acordáis, laváis, lloráis, esperáis, dejáis*)。 *-áis* の語尾も 1 例ある (*regresáis*)。

ER・IR 動詞接続法現在：*-áis* の語形 (*oigáis*) と *-ais* の語形 (*permitáis*)、それに *-ais* と表記された語形 (*creyais*) の各 1 例がある。最後の例は [*kréjais*]ではなく、*creyáis* あるいは *creyais* とあるべきところ、アクセント符号が表記されていないのではないと思われる。

多くが *-áis* の語形が並んでいる先頭に掲げられた見出しに *-ais* (ER 動詞直説法現在の部分で *-eis*) とあるのでアクセント符号の位置は不確実であ

る。

“¡Ay, si tú te acordáis de mí! como yo siempre me acuerdo”

“Tú te fuiste de trote y regresáis de paso”

Si el “ccala” te piropeya, lecherita, no le oigáis.

“No permitáis que te domine el cansancio...”

“No creyais que tuito es lomear como el jumento...”

ER 動詞直説法現在：-éis (sabéis), -és (tenés, sabés), -ís (creís, movís, tenís, conocís, querís, habís, hacís, sabís), -is (tenis, hacis, sabis, queris)

“Es que sabéis mamita, lloro porque tengo miedo”

“Hasta tenés cara de desvelo”

“¿Creís que tengo miedo a tu hermano?”

“La cara tenis como una muñeca”

AR 動詞接続法現在：-és (dejés) と -is (dejís) の語形が示されている。

“No dejés de visitarme en el cementerio... y no dijis de mirar pal cielo”

未来形：-éis が 2 例と -is が 1 例のみである。

“¿Preparareis la merienda para primos y sobrinos?”

“¿Cuándo traereis la kola escocesa?”

“Te verís viejo y cansao antes de que llegues.”

肯定命令形：複数起源形 (trabajá, escuchá, tomá, perdoná, quedáte, fijáte; poné, tené; decíme) と単数形 (sácame, cántame (別のところに cantáme の例示がある), cállate) がある<sup>11)</sup>。

“Trabajá con volunta la chacrita”

“Poné pue la chamba a la acequia pa que pase el agua pacá...”

“Decíme pue si este sueño puede ser verdad y sácame la espina de mi corazón”

不規則変化動詞 ser, ir, estar, oír の活用形の例が直説法現在で sois, vais, estáis、接続法現在で seyais, oigáis があり、ser に y が挿入される点を考慮に入れなければ、2 人称複数形と同じ形である。ver は、直説法現在に véis と vís/vis の二つの語形の例がある。

“Que vos sois la hija más querida de ña Arequipa!”

“Ande váis?”

“Ya estáis a la moda usando la laca”

Si el “ccala” te piropeya, lecherita, no le oigáis.

“Si véis desde la entrada de Arequipa hasta Uchumayu, hace treinta años todo era cerro...”

\*\*“Ay mi hijito tené pacencia, como vis ya tengo mis años”

話し手の発話を聞いた経験から、敬称の *usted* に対して、親称の *tú* 使用が大部分であり、*voseo* を使っていたのは年配であったので、消滅する傾向にあるとの言及がある (p. 21)。

## 6) ロンコ詩からの例

*POEMARIO LONCCO* (ロンコ詩集)<sup>12)</sup> の歌詞 4 編のうち、“DINDE SACHACA YO VENGO” というタイトルの詩に、AR 動詞直説法現在形に *-áis* (*regresáis, habláis*) と *-áis* (*regresáis*)、ER・IR 動詞に *-is* (*movís, habís; vestís*) と *-is(tenis)* が、ER・IR 動詞接続法現在形に *-áis* (*querais; vengáis*) が見られる。動詞 *ir* は 2 人称複数形と同形 (*vais*) である。

“Te fuiste de trote / y regresáis de paso, / las ancas movís / como un resorte. / La cara tenis / como una muñeca, / y ya no vestís / como te criaste / ni tampoco habláis / como los de aquí.

Lo que si no creyo / de tí Marujita, / es que no querais / ni verla la chicha / esa guena jora / con que habís creciu / la que tantas veces / la habís toncoreau, / después de sudar / en la chacra grande / del Tío don Luis.

Y aura que vengáis / a decir joronda / que ya no te gusta / la cancha y el mote / ¡Que seriya entonces / si vais pa Lima / y después de un tiempo /regresáis pa aquí!”

Félix García Salas の *Poemas Lonccos*<sup>13)</sup> にある 14 編の歌詞のうち、“EL LAMENTO” というタイトルの詩に、ER 動詞直説法現在で *-is* の語形 (*tenís, hacís, querís*)、AR 動詞接続法現在で *-ís* の語形 (*encontrís*)、命令形で AR 動詞で *-á* の語形 (*llevá, andá*)、ER 動詞で *-é* の語形 (*corré*)、IR 動詞で *-í* の語形 (*vení*) が見られる。

“— ¡Corré corriendo!, ¡llevá el gana’u a la chacra!, / ¡ya se los están comiendo las moscas!; / ¡tenís que lavar la tinaja y las chombas!, / ¡se va a picar esa chicha, ¡carajo...! —

— ¡¿qui’hacís para’uái escuchando...?!, / ¿querís saber lo que conversamos...?, ¿no tenís que hacer?, ¡badulaque...! / ¡andá a desempoyar el

güñapo! / y al seco de la hera, ¡lleválo al molino...! —”

“— ¿Y tu'avía tienes cara pa' venir...? / ¡no quiero ni verte hasta que la encontrís!”

“— ¡Manuel Toriii ... bio veniii ... teee...!, / ¡ya la burra aparecióoo...!”

## 2. 北部

### 1) Pedro Benvenuto Murrieta (1936: 139–140)

北部のパリヤスカ郡 (Pallasca)、サンマルティン県 (San Martín) そして北部海岸地帯にある voseo は消滅しつつあるとしている (Hummel 2010: 377)。北部のパタス郡 (Pataz)、カハマルキリヤ郡 (Cajamarquilla)、エテン区 (Eten) では、主格代名詞 vos (と 2 人称単数動詞形) が現れることがあるとしている (Hummel 2010: 379–380)。いずれも民衆層の話し手によるものである。

“Para que veyas vos ... ¿Güena y vos? ¿Pa que lo llamaste tan temprano? ... Vos tengas la culpa que el ratón se lo haya comido el zapato...” (A Golpe de Arpa, Hummel 2010: 380 の引用)

### 2) Charles Emil Kany (1951)

Benvenuto Murrieta からの情報の他は、シロ・アレグリア (Ciro Alegría, 1909–1967) の *La serpiente de oro* (1935)、*Los perros hambrientos* (1938)、それにロペス・アルブハル (López Albújar, 1872–1966) の *Matalaché* (1928) からの引用で、前者は、パタスとカハマルキリヤのマラニョン川 (Marañón) 流域、後者は、ピウラ県 (Piura) 北部の言葉使いを文学作品にうつしたものとある。主格 vos と 2 人称単数動詞形使用の例が大部分で、1 例のみ、前置詞 con の後ろに vos が使われている。*Matalaché* からの引用の動詞 ser は sos の語形である。

“Es que vos, José Manué, sos aquí l'único después del amo” (Kany 74)

### 3) José Pedro Rona (1967)

ペルー北部のカハマルカ県の 3 地点 (Bambamarca, Cutervo, Chota) の回答で、代名詞のみの voseo を確認したとある (p. 66)。別の所 (p. 79, p. 84) にはエクアドルとの国境地帯としてカハマルカ県の他にラ・リベルタ

県 (La Libertad) に同じ用法があるとしている。

“vos tomas, vos tienes” (p. 84)

#### 4) Carlos Arrizabalaga (2001)

1996年以降、Arrizabalaga は、ピウラ郡 (la provincia de Piura) の各地で vos の使用と、vos 使用について知っているかどうかをたずねたとある。結論として、現在、voseo は、北部海岸地帯から消滅し、山岳地帯の農村地帯、すなわちアヤバカ (Ayabaca) と、さらに少ないがウアンカバンバ (Huancabamba) にのみ残存している。また都市貧困層で農村部からの移入者の家族内での会話に聞かれることがあるとしている。過去における状況として、Benvenuto Murrieta と Martha Hildebrandt (*El español de Piura, tesis doctoral, la Universidad Nacional San Marcos, 1949*) の報告から1930年代と40年代には、ピウラの最下層 (先住民) に代名詞 vos の使用があった。この地方の文学と口頭伝承でこの古い vos 使用が伝えられていると例文を示している。

### 3. 中央部

#### 1) Pedro Benvenuto Murrieta (1936)

歴史的考察として、リマでは18世紀末に voseo が消失し、“hablarse de tú y vos”, “ser de tú y vos” という言い回しがリマにおける唯一の voseo の名残であり、tú の直説法点過去 hablastes, dijistes が voseo 起源としている。また農村からの先住民の話し方として意識されていることを小説からの引用で示している：“¿Cuántas mulas necesitas vos?” (山岳地帯の先住民荷車引きのセリフ。Manuel Atanasio Fuentes (1867) *Lima*)。クスコでも同様に、18世紀中頃には tú が一般的であったとしている (Hummel 2010: 379)。

#### 2) José Pedro Rona (1967)

カリヤオ (EI Callao) に、少数ではあるが voseo 使用者がいると報告している (103)。ここは移民が入ってくる港町なので voseo があることは驚くべきことではないと、Hummel (2010: 384) は述べている。Rona の報告では、ここの voseo について詳しいことがわからない。移住してきたばかりの人々が使用しているという状況であるなら、ペルー中央部の voseo と

考えることはできない。

#### 4. まとめ

ペルー南部での vos に一致させる複数起源動詞形は、-áis, -áis, -ás; -éis, -éis, -és, -is といった複数の語形の報告があつて確認できない。北部では、かつて主格の vos 使用が存在していたのだが、ほぼ消滅しているという状況である。このような状況では、堀田 (2011: 187-233) でスペイン語圏全体における 2 人称代名詞と動詞形の地理的分布と歴史について書いたことと、ペルー南部の voseo の残存と北部における vos 使用との関連について考察するには資料が不確実である。

ただ、以下のような変化の過程の可能性がある。

- 1) 短母音語尾系 -ás, -és, -is と二重母音語尾系 -áis, -éis, -is が共存していた中世スペイン語から、二重母音系を使おうとする 16 世紀前半のスペインにおける意識が、スペインからペルー中央部に伝わり、一方は北に、他方は南と南東に拡がっていった。短母音系が優勢であった南北アメリカにおいて二重母音系を真似た結果、うまく真似られた地域では二重母音形すなわち複数形 -áis, -éis が使われ、うまく真似られなかった地域で -és > -is の変化となり、C 型動詞形になったと堀田 (2011: 213) で述べた。この変化に -és > \*-éis > -is という過程を考えた。もし、ペルーのアレキパに -áis, -éis の語形が存在していたとすると、この仮説の証拠となる。また、アレキパでは、この変化の過程のいくつかの語形が見られるという解釈となる。
- 2) 2 人称に vos 系列 (代名詞 vos, (v)os, vuestro と 2 人称複数 (起源) 動詞形) と tú 系列 (代名詞 tú, te, tu, tuyo と 2 人称単数動詞形) が話し相手との関係で敬称と親称に使い分けられていた中世スペイン語から、価値がほぼ同等、あるいは vos 系列が蔑称の価値を持つことで vos 系列を使用しないという意識が、スペインで 16 世紀後半から 17 世紀におこり、これがペルー中央部に伝わり、南北や南東に拡がっていった。この過程における vos 系列各要素の消滅に順番があつたことを想定させる。すなわち、目的格 vos あるいは os と所有形容詞 vuestro が最初に消滅し、次に 2 人称複数 (起源) 動詞形が単数動詞形に置き換わり、最後まで残つたのが、主格 (と前置

詞格)の vos という順番である。この仮説が正しいとすると、ペルー北部における主格 vos と 2 人称単数形の動詞を使う形は、この最後の過程が残っていると考えられる<sup>14)</sup>。

スペイン語圏全体における 2 人称すなわち待遇形式の歴史を考察するためには、ペルーにおける待遇形式の地理的分布と歴史的变化過程を視野に入れて考察する必要がある。そのためには、1. から 3. までで見た先行研究者の報告に加え、ペルー南部での使用語形をさらに正確に把握し、文字資料によるペルーの地域ごとの歴史を調査する必要がある。

## 注

- 1) 本稿は、科研費(課題番号21520584)の助成を受けた研究成果の一部である。
- 2) 南北アメリカの voseo のこと。代表的な形としては、親しい単数の話し相手を示す代名詞主格前置詞格に vos、目的格に te、所有形容詞に tu、tuyo を使い、主語が vos の時、動詞を 2 人称単数形か 2 人称複数起源形を用いること。
- 3) 親称単数 2 人称にスペインの標準スペイン語と同じ tú 系列の代名詞を使用すること。
- 4) 国内の一部地域のみには voseo があるという点で同じ状況にあるメキシコは国名のみがタイトルとなっている。またアルゼンチンのタイトルはなく、ラプラタ河地域のタイトルにアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイが含まれている。
- 5) 以下、引用文中の下線は堀田による。
- 6) Rudolf Lenz (1891) “Zur spanisch-amerikanischen Formenlehre”, *Zeitschrift für Romanische Philologie* 15: 518-522 (Hummel 2010: 382の引用による)
- 7) Pedro Benvenuto Murrieta (1936) *El lenguaje peruano*, tesis doctoral, vol. 1, Lima, Universidad Católica del Perú (Kany 1951 および Hummel 2010の引用による)
- 8) ペルーの行政区画は、憲法(1993年)の第189条“El territorio de la República está integrado por regiones, departamentos, provincias y distritos”によると4つの名称があがっている。このうち Departamento を「県」、その下の区画である Provincia を「郡」、さらにその下の Distrito を「区」と訳すこととする。ただし Rona (1967)からの引用には Provincia を「県」と訳す。
- 9) Rona (1967) は、departamento (本稿で県)のことを provincia と書いていると考えられる。Moquegua および Loreto を “Provincia” としているのと、“Provincia

- de Arequipa”の東に“Provincia de Tacna, Moquegua”と記述しているからである。
- 10) Guajardo (2009: VII) の動詞分類は、第1活用動詞の中に ir, oír の例があるなど不備があるため、ここでは分類しなおしている。
  - 11) 命令形 (IMPERATIVO. B) にある “Descscaycáte el egoísmo...” の動詞不定詞形が確認できない。“Consigameló un palo pa tocpir...rápido! Arremelós...” の1つ目の動詞は接続法3人称単数なので、voseo ではない。2つ目の動詞不定詞形が確認できないが、同じく接続法3人称単数なら、arrear+me+lo の可能性がある。
  - 12) <http://miqueridaarequipa.com/poemario-loncco/> (2011年10月20日参照)
  - 13) <http://poemas-lonccos-arequipa.globered.com/> (2011年10月23日参照)
  - 14) ただし、「代名詞の voseo」(voseo pronominal) と呼ばれる、主格 vos と2人称単数形の動詞を使う形は、voseo が威信を持った国の中で、tuteo 使用者が voseo を、主格 (および前置詞格) のみで真似たという方向の可能性もある。

## 引用文献

- 堀田英夫 (2011) 『スペイン語圏の形成と多様性』朝日出版社
- Arrizabalaga, Carlos (2001) “Noticias de la desaparación del voseo en la costa norte del Perú”, *Lingüística Española Actual*, 23, 257-274.
- Guajardo Castro, Alejandra (2009) “Aspectos morfosintácticos del voseo en el ‘habla loncca’ de la campiña arequipeña”, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Escuela de Postgrado, Maestría de Lingüística. (<http://wikieducator.org/images/d/d5/Lonccos.pdf> 2011年9月4日参照)
- Hummel, Martin (2010) “El estudio de las formas de tratamiento en Perú” en Hummel et al. (2010) *Formas y fórmulas de tratamiento en el mundo hispánico*, México, D.F., El Colegio de México.
- Kany, Charles Emil (1951) *American-Spanish syntax*, 2d ed., Chicago, University of Chicago Press.
- Real Academia Española (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Madrid, Santillana Ediciones Generales.
- Rona, José Pedro (1967) *Geografía y morfología del voseo*, Pôrto Alegre, Pontificia Universidade Católica do Rio Grande do Sul.